

## ハワイ研修を終えて

福島県立医科大学附属病院 初期研修医（1年目） 大久保怜子

研修最終日の講義の中で Dr.Tokeshi は、ハワイ大学のレジデント選出基準の一部として① leadership skill ② interpersonal skill ③ real like help people ④ physically, mentally strong の4つを挙げていました。これはどの社会においても当然必要とされることであり、医師やレジデントに限った話ではありません。しかしあえてこれらが列挙されることに、医師という職業にとってのそれらの重要性を感じます。

医師になった最初のこの2年間は、今後医師として生きていくに当たり土台となる期間です。現実には毎日がめまぐるしく過ぎていってしまう中で、いかに実のある経験や知識が積み重ねられるかが重要ですが、その大部分は先生方、同僚、そして患者さんといった人たちとの関係の中からもたらされるものであると感じます。

今回私は主にハワイ島で研修する地域医療コースに参加させていただきました。学生時代の実習で地域医療を経験したこともあり、今度は海外でのプライマリケアの現場に触れたいという思いがあったこと、また日米の医療の共通点や差異は地域の医療により色濃く出てくるのではないかと思ったのがそのコースを選んだ動機です。

研修2日目、私たちはハワイ島のヒロという町に移動しました。

見学させていただいた主な病院は Hiro Medical Center、Family Health Center、Hamakua health Center の3か所です。それぞれの病院で施設やその理念を説明していただき、そこにある背景や携わる人たちの信念に触れることができました。



Family Health Center では実際に少人数に分かれて診療に同行させていただきました。私は産婦人科の先生の診療に同行させていただきました実際に3人の患者さんの診察を経験しました。日本でもそれは同様ですが、医学知識や病気や妊娠に対する認識も個々人により差が大きく、さらに抱える問題は日本とはまた異なったそれぞれの人の文化や背景に密接にかかわるものでした。最終的な意思決定がなされるに当たり

り、十分な問診と選択肢の提示、決定にいたるまでの医師と患者のやり取りにかけられる時間の多さが、複雑な患者背景のなかでも信頼関係を築いている理由であると感じました。

共通して感じたことは、地域医療に携わる医療人員の不足はハワイでもまた同様に深刻な問題であるということです。アメリカのように文化や人種に多様性がある環境において、個々の

背景から患者を診る Family medicine の概念は重要であると感じました。加えて保険制度の差や自己決定の意識の高さに対応するためには様々な形態の医療施設が必要です。情報へのアクセスや人的物的資源の限られた中で、医療基準のみならず地域間でも差のない医療を提供するための努力が多彩な角度からなされ、ハワイ島の人々の医療が支えられていました。

また、Hilo では現地の先生方やレジデントとの懇談会や食事会の機会をたくさん設けていただき、お互いの国の医療から個人の人々の進路や考え方で多岐にわたる話題についてお話をすることができました。それぞれ立場は違えども、医療や医業についての意識が高く信念がある方たちばかりで、医師に必要な 4 つの要素は皆ごく自然に兼ね備えているように見えました。

今回の研修を通じ、ハワイの医療や日本との違いの一端に触れることができたのはもちろんのことですが、同じ医療に携わる世界の人々との出会いと交流が、私にとって何よりの刺激と経験になりました。同時に自らの考えや目指す医師像を改めて見つめ直すよい機会となりました。



最後に、この研修で interpersonal ship の実践の 1 つとなったのは同じグループのメンバーや葛西先生との時間です。仲間に恵まれ充実した 1 週間を過ごすことができたことに感謝します。

今回この機会を与えて下さった先生方、医療人育成支援センターの皆様、ハワイ大学の皆様に心から感謝申し上げます。

研修医のこの時期にこのような経験ができたことは私にとって大きな財産となりました。この経験を今後十分に生かすため、これをきっかけの一つとして自分の幅を広げていきたいと思っています。また医師として必要な人間性や skill を常に心に携えていられるよう意識できる医療人でありたいと思います。